

「改訂版 古典B 古文編 教授資料」(古B 343) 訂正のお願い

常日頃は弊社書籍をお使いいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、大変恐縮に存じますが、本書に下記の誤りがございました。心よりお詫び申し上げますとともに訂正内容についてご報告させていただきます。

誠に恐れ入りますが、ご指導の際にはご留意を賜りますようお願い申し上げます。

不備を残しまして、ご迷惑をおかけいたしますこと、重ねてお詫び申し上げます。

訂正箇所		原文	訂正文
頁	行		
【1分冊】 41	上段2 「罪をかぶらむぞ」 の「む」	推・ <u>終</u>	推・ <u>体</u>
【1分冊】 45	上段 「語句解説」 1 かぶらむぞ	推量の助動詞「む」の <u>終止形</u>	推量の助動詞「む」の <u>連体形</u>
【1分冊】 68	上段6 「うちも寝ななむ」 の口語訳	少しでも寝て <u>しま</u> って欲しい。	少しの <u>間</u> でも寝て欲しい。
	下段16		
	上段7	<u>心 病み</u> マ四・用	<u>心病み</u> * 1語にする。 マ四・用
【1分冊】 71	下段19	「ぐっすり寝て <u>しま</u> ってほしい」「さっさと寝て <u>しま</u> ってほしい」	「ぐっすり寝てほしい」「さっさと寝てほしい」
	下段 「問10」の「答」	少しでも寝て <u>しま</u> って欲しい。	少しの <u>間</u> でも寝て欲しい。
【2分冊】 125	上段1 「口惜しかりける」 の「ける」	<u>過</u> ・体	<u>詠</u> ・体
【3分冊】 36	上段8-9	⑰雪降りにけり。⑱登華殿の御前は立部近くてせばし。雪、いとをかし。	雪降りにけり。⑱登華殿の御前は立部近くてせばし。⑰雪、いとをかし。
【評価問題集(第一章)】 161	中段 「伊勢物語 通ひ路の関守 標準問題」	問一 (1) ついじ	問一 (1) <u>ついひじ</u> ( <u>ついじ</u> ・ <u>つきひじ</u> )

※お持ちの刷では、上記の訂正内容が修正済みの場合がございます。

以上